



MP RACING

SUPER TAIKYU RACE in OKAYAMA

SUPER TAIKYU SERIES 2021 Powered by Hankook Round 6

カテゴリー	: スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook ST-X クラス	公式予選 A Dr.	: 1'32.604 (ST-X クラス 4位)
エントラント	: MP Racing	公式予選 B Dr.	: 1'28.703 (ST-X クラス 1位)
カーナンバー	: 9	公式予選 (A/B 合算)	: 3'01.307 (ST-X クラス 4位)
マシン名称	: MP Racing GT-R	公式予選 C/D Dr.	: 1'31.363 (ST-X クラス 4位)
ドライバー	: JOE SHINDO・柴田優作・影山正美・富田竜一郎	決勝	: ST-X クラス 5位 (3:02'00.886 / 108 周)
大会名称	: スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook 第 6 戦 スーパー耐久レース in 岡山		
レース時間	: 3 時間		
開催地	: 岡山国際サーキット (岡山県)		
開催日	: 2021.11.13~2021.11.14		
天候	: 晴れ / 曇り (11.13) 晴れ~曇り (11.14)		
イベント動員数	: 3,000 人 (11.13) 4,500 人 (11.14)		



スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook もいよいよ最終戦。11月13日から14日に岡山国際サーキット（岡山県）でシリーズ第6戦“スーパー耐久レース in 岡山”が行われた。前戦鈴鹿大会は新型コロナウイルスの蔓延再拡大による社会情勢を考慮し、苦渋の選択の上で欠場したMP Racing。

情勢が沈静化を見せたこともあり、再びサーキットに鮮やかなイエローのGT-Rが帰ってきた。今回、MP Racingはドライバーラインナップを一部変更。レギュラードライバーのJOE SHINDO、柴田優作、影山正美に加え、Dドライバーに今季海外で活躍していた富田竜一郎を起用。強力なドライバーを編成し、最終戦の勝利を目指す。

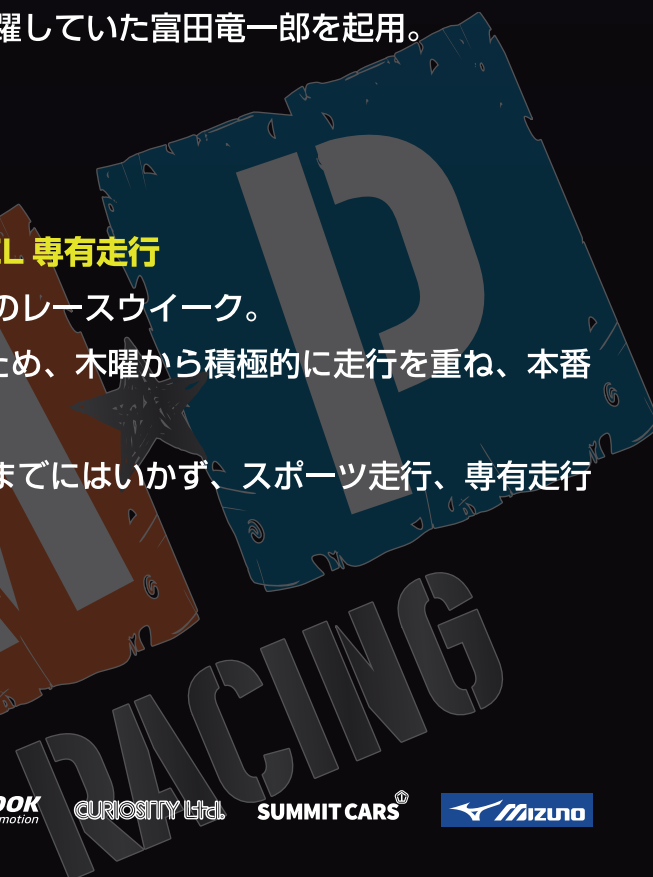
11月11日（木）～12日（金）特別スポーツ走行、STEL 専有走行

空には雲が広がり、非常に低い気温の中で始まった最終戦のレースウィーク。

第4戦オートポリス以来、実に3ヶ月ぶりの実戦となるため、木曜から積極的に走行を重ね、本番に向けてのデータ収集やセットアップ作業に勤しんだ。

少量の降雨はあったものの、コンディションを悪化させるまでにはいかず、スポーツ走行、専有走行ともに終始スリックタイヤを履いて走行。

タイムもライバル勢と遜色なく、順調な仕上がりを見せた。





11月13日(土)公式予選

午前中に行われたフリー走行を経て、行われた公式予選。

14時15分からグループ1のAドライバー予選が行われた。

入念なウォームアップを経てアタックを開始したJOEは計測6周目に1分32秒604をマーク。その後、チェッカーフラッグが振られるまでアタックを継続するも、タイム短縮は果たせずST-Xクラス4位となった。

続いて15時10分から行われたBドライバー予選。

10分間という僅かな時間の中、柴田は計測3周目に1分28秒703のコースレコードをマーク。ライバル勢を圧倒するアタックにより、ST-XクラスのBドライバー予選トップに立つ。

決勝グリッドはA、Bドライバーの合算タイムで決まるため、MP Racingの第6戦予選結果は3分01秒307で4位となった。

15時30分から行われたC、Dドライバー予選ではタイムが予選順位に反映されないことから、影山と富田が決勝を見据えた準備を並行して走行。

基準タイムをクリアし、後は翌日の決勝レースを残すのみとなった。



11月14日(日) 決勝

スタート前に空を覆っていた雲は徐々に晴れ、コース上に陽が強く差すまでに回復。

13時33分、フォーメーションラップを経て、今季最後のスーパー耐久がスタートした。スタートドライバーは影山が担当。

4番手スタートの影山は抜群のスタートを見せ、オープニングラップで2位に浮上。そして勢いそのままに首位を走る16号車ポルシェを猛追する。

しかし序盤から無線で”グリップダウン”との報告。日差しが路面温度を上げたのか、タイヤの内圧が想定以上に上がってしまったようだ。

7周目に入り、コースアウト車両排除のためにフルコースイエロー (FCY) が導入され、全車50km/hまで速度を落とす。解除後に81号車GT-Rに交わされ、順位を3位に落としてしまった。

影山はその後、3位をキープしたまま周回を重ねて39周目にピットイン。柴田へとドライバー交代を行なった。

迅速なピット作業を終え、3位のままコースに復帰した柴田。

52周を終えてピットインを行なった81号車と入れ替わり2位へ浮上する。

順調に走行していたMP Racingだが、59周目に予期せぬ事態に見舞われてしまう。

ウィリアムズコーナーに差し掛かったところでST-Zクラスのマシンに弾き飛ばされてしまい、アウト側のグラベルに深く埋まってしまった。

オフィシャルの手を借り、コースへ復帰できたがST-Xクラス5位まで大きく順位を下げた。



コース復帰直後、ピットに戻った柴田はタイヤを交換し、ダメージチェックを行なった後、ドライバーはそのままにコースへ復帰。そして 69 周を終え義務ピットストップを消化するため、3 回目のピットイン。JOE にドライバー交代を行なった。

残りレース時間は 1 時間。

JOE は最後のステントを確実に走り切り、MP Racing GT-R は 108 周で今季最後のチェッカーフラッグを受け、ST-X クラス 5 位でフィニッシュした。

この岡山大会で今季のスーパー耐久シリーズのスケジュールが全て終了しました。

今季、私達はとても厳しい戦いが続き、思うような成績を残すことができませんでした。

しかし、私達は困難を前にしてもチームワークをより強固にすることで、1 年間で戦い切ることができました。

また、随所で MP Racing のスピードや強さを見せることができた事で、勝利を狙えるチームであることを再認識できました。

来シーズンも参戦することがあれば、次こそは念願のシリーズタイトル獲得に向け、邁進していきたいと思えます。

最後に、皆様よりいただきましたご支援、ご声援に心より感謝申し上げます。